

理事長退任のごあいさつ

社会福祉法人 京都ワークハウスの役職を退任するにあたってのご挨拶を申し上げます。

私こと、西村清忠は、2004年9月から当法人の理事職並びに理事長職の任を受け職責を果たしてまいりましたが、2019年3月末をもって、一身上の都合により、この任を辞することになりました。在任中は、理事会はじめ評議員会、後援会、職員の方々、利用者みなさま、ご家族みなさま、法人の関係者みなさま方には、大変お世話になりました。さらに、地域の各種団体、役員みなさま方におかれましても、大変お世話になりました。

これからは、高城理事長を中心に皆様方が結束して、社会福祉法人京都ワークハウスが、与えられた使命にあたられ、益々の活躍を果たされることをお祈り申し上げます。みなさま方のご健勝とご多幸を念じ、退任にあたってのごあいさついたします。ありがとうございます。

西村 清忠

理事長就任のごあいさつ

この度、西村清忠前理事長より、その任を引継ぐこととなりました。今から、36年前、下京の地で生まれたワークハウスは、1名の障がいある人達と職員1名が働く小さな共同作業所から出発しました。その後、利用者の増加に伴い南区へ、更に、21年前に上京ワークハウスとしてこの地で新たに出发し、以来、地域みなさまによって育んでいただけてまいりました。

今では、みなさまのご理解とご支援に支えられながら、「上京ワークハウス」で、「すてっぷ系屋」で、「まんまん堂」で、「咲あん」で、40数名の方が生き生きと働いています。また、2か所のグループホームで、10の方がみなさまにサポートしていただきながら、自立してくらしています。地域の皆様をはじめ、関係諸機関のみなさまのご理解とご支援の賜物と、深く感謝しております。

当法人がめざしておりますことは、「障がいのある人が社会の中で力いっぱい働き・くらし続けることを支える事業を行うこと」《地域の方々と手を携え、地域福祉の向上に努めること》です。言い換えれば、「誰もが人として暮らしやすい地域と社会をめざすこと」でもあります。

昨年の秋には、全国の就労支援事業所で働く障がいある人達4000人が、この京都に集まり、今とこれからの運動について、二日間わたくし話しました。その中で、「ともに生きる、ともに創る 夢ある未来へ」というテーマの大切さを確認しました。

当法人も大変微力ではありますが、評議員会、理事会、後援会、職員一同、《地域みなさまと、ともに生き、夢ある未来をともに創る》ことに、少しでも貢献できることを願っております。

これまでの当法人の発展を築いて来られた歴代の理事長並びに運営委員長のお力には、はるかに及ばない者ではございますが、めざす方向に向かってその責を果たしていく所存でございます。どうぞ、今後ともご指導ご鞭撻をお願い致しまして、ご挨拶とさせていただきます。

高城 佳代子